



ゆかり通信
VOL. 299
令和4年12月

SENSHOJI
2022 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2022年千正寺カレンダー 12月の言葉



見えないものと闘った一年は
見えないものに
支えられた一年だと思えます。

真冬の撮り取りは大変です/シマフクロウ

今年も早いもので師走の季節となりました。コロナ禍の生活も三年目を過ぎようとしています。今月の言葉は某健康食品のCMにでてきた言葉で、最初の「見えないもの」とは、新型コロナウイルスのことです。マスクをして三密をさげ、日々の生活の中で誰もが感染しないよう心がけて、この一年も過ごしてきたのではないのでしょうか。

このように見えないものと戦った一年ではあるけれど、それは同時に見えないものに支えられている一年でもあったと意識の転換によって、気持ちも変わることを教えてくれています。後者の「見えないもの」とは、私を支える見えない気づかないはたらきのこと。

「コロナで!」「コロナがなければ!」と、不平不満がこぼれる生活の中でも意識が変われば、数多くの見えないはたらきの中で私は支えられていたのだと感謝の気持ちが生まれてくるのでしょうか。

しかし、自分自身の意識を転換することは容易ではありません。私は仏教の教えを聞かせていただくなか、そのことを痛感しています。ご法話でよく「はかないのち」「かぎりあるのち」と聞かせていただきますが、私自身はいつまでも生きていだろうと、たかをくくって、はかないのちに気づこうともせず過ごしています。

江戸時代の歌人、小林一茶さんの句に

「露の世は 露の世ながら さりながら」という歌があります。

この句は、一茶さんの長女・さとが幼くして流行病で亡くなったときに詠んだものです。露のようにはかないこの世だとは聞いていたが、まさかこんなにも早く娘と別れることになるろうとは、という一茶さんの悲しみと切なさが表れています。

長女・さとを亡くした年の暮れに詠んだ句が

「ともかくも あなた任せの 年の暮れ」という歌です。

一茶さんも浄土真宗の信仰に生きた方で、ここある「あなた」とは、阿弥陀様です。

阿弥陀様の救いは、はかないのちだと聞いていてもそのことに気づけず、悩み苦しむ私をおさめ撰ってくださっている。今年も暮れて行く……。そういう思いが込められた歌だと味わっています。

(文：鹿谷賢純法務員)